

精神科神経科

後期（専門医養成）研修プログラム

はじめに

千葉 茂

21世紀は、「脳と心の時代」です。これからの精神医学は、広くニューロサイエンスの進歩を取り入れながら心の病のメカニズムを解明し、これを癒す方法を見いだしていかなければなりません。

患者が心の病から快復したときの笑顔に接すると、精神科医という仕事は、とてもやりがいがあると実感します。これから本格的に精神科医の道に進もうとする医師、あるいは精神医学をさらに勉強したいと望んでいる医師を、教室スタッフ一同心から歓迎します。

卒後臨床研修修了後の3～4年間は、1) 臨床精神医学の知識・経験を幅広く身につけること、および、2) ある特定の分野について専門性を磨くこと、が目標になると思います。

1) については、とくに精神保健指定医になることは精神科臨床においてきわめて重要であり、これまで教室のスタッフは全員、その目標を達成してきました。

2) に関しては、当科は、①日本睡眠学会認定医療機関（A型）、②日本老年精神医学会認定医療施設、③日本てんかん学会認定医（臨床専門医）研修施設であり、我々はこれらの認定医・専門医を目指す医師を大切に育成します。今後は日本精神神経学会をはじめとするいくつかの学会の認定医療機関にもなる予定です。また、研究面では、大学院医学博士課程修了または原著論文作成によって、これまで多数の医学博士が誕生しています。研究は自由闊達に行われており、そのオリジナリティーあふれる研究成果は国内外で認められています。

我々は、日本の最北に位置する当教室から、地域に、そして世界に新しい精神医学を発信する若いリーダーを育成します。皆様には、雄大な大雪連峰を眺めながら、高い志をもって研鑽に励んでほしいと願っています。

1. 精神科専門医コース

(1) 基本研修

3年間の研修期間を通して、精神科の全ての領域の疾患についてできるだけ多くの症例を経験させ、オールラウンドな精神科医の育成を行う。研修終了時には、精神保健指定医取得に必要な以下の入院8症例すべてを経験しておくように指導する。

- ◆統合失調症圏：措置入院または医療保護入院3例（うち1例は措置入院）
- ◆躁うつ病圏：措置入院または医療保護入院1例
- ◆中毒性精神障害：措置入院または医療保護入院1例
- ◆児童・思春期精神障害：措置入院または医療保護入院1例
- ◆症状性または器質性精神障害：措置入院または医療保護入院1例
- ◆老年期認知症：措置入院または医療保護入院1例

(2) 認定医・専門医取得

基本研修と重複する3年間プラス1～2年間の期間内に、以下の各種認定医・専門医取得に必要な研修を行う（各研修医の希望に応じて複数取得も可能）。

- ◆日本睡眠学会認定医
- ◆日本老年精神医学会認定医
- ◆日本てんかん学会認定医（臨床専門医）

以下に各学会の認定医・専門医制度を紹介する。

【日本睡眠学会の睡眠医療認定医師（学会認定医）】

ヒトの健康を維持するために、睡眠が重要であることに疑いの余地はない。しかし、現代人の睡眠時間は次第に短縮し、かつ、夜12時以降も起きている人の割合が増加している。わが国では、約5人に1人が睡眠の問題を抱えており、うつ病などに伴う睡眠障害も多くみられる。最近では、睡眠障害がもたらす作業能率の低下や日中の眠気による交通事故といった深刻な問題もクローズアップされている。このような状況を踏まえ、日本睡眠学会は睡眠医療の普及と向上を目的として、平成13年に睡眠医療認定医師（学会認定医）、および、睡眠医療認定医療機関（学会認定医療機関）の認定制度を設立した。

睡眠障害は、その国際分類では80種類以上も存在する。その診断・評価に用いられる検査法のゴールドスタンダードは睡眠ポリグラフィであり、そのデータ判読には高い専門性と経験が要求される。

当科は、道内国公立大学では唯一の学会認定医療機関A型に認定されている。我々は、平成16年度に、睡眠クリニック（外来）と睡眠医療のための特別な個室2床（病棟）を開設し、これらと脳波・コンピュータールーム、ナースステーション、解析専用ルーム（精神医学講座）をネットワークで接続した「精神行動生体现象モニタリングシステム」を構築した。本システムを駆使することによって、我々は、睡眠障害の診断・病態解明のためのデータ解析技術や治療評価法などを飛躍的に向上させることができ、臨床研究も精力的に行われている。現在、睡眠クリニックには道内から多くの患者が受診しており、また、病室も常に利用されている。睡眠医学に関する十分かつ高度な研鑽を積むことができる。また、臨床研究についても指導を受けることが可能である。

参考までに、日本睡眠学会の睡眠医療認定医師（学会認定医）の取得条件を以下に記す。

- 1) 臨床医として5年間以上の実地経験
- 2) 学会認定医の指導のもと、睡眠医療に関する2年間以上の学会認定医療機関（当科）での臨床経験
- 3) 日本睡眠学会の3年間以上の会員歴
- 4) 日本睡眠学会および関連する国際的睡眠学会の定期学術集会に3回以上の参加
- 5) 睡眠医療に関する学術論文3編以上
- 6) 審査（筆記試験、実地試験、症例報告書）

【日本老年精神医学会認定 専門医・指導医】

日本老年精神医学会認定専門医・指導医とは、老年精神医学について、優れた学識と高度の技能、および倫理観を備えた臨床医を養成し、わが国における高齢者の医療の向上ならびに保健・福祉に貢献することを目的に制定されたものである。

本学会における認定医・指導医を習得するためには、学会認定施設（本学附属病院 精神科神経科は認定施設である）において老年精神医学の診療に従事し、かつ所定のプログラムを修了し、かつ学会における専門医認定試験及び審査に合格する必要がある。

社会の急速な高齢化により、臨床の場においても老年精神医学は重要であり、本認定医・指導医を修得することには大きな意義がある。

当科では、当大学精神医学講座におけるアルツハイマー病と酸化ストレスの関連をテーマとした痴呆の基礎、臨床研究に基づく知見を臨床の場にも還元させていることに特色がある。痴呆については、対象を mild cognitive impairment (MCI) のごく軽度の認知機能障害の方まで広げている。その診断に際しては、通常の形態画像検索、機能画像検索、神経心理学検査のみならず、全例に脳脊髄液中の総タウ蛋白測定、および血清、尿、脳脊髄液の検体から各種酸化ストレスのマーカーを測定し、認知症の診断精度を向上させている。また、せん妄や幻覚・妄想などの初老期・老年期における精神障害の診断・治療にも力を入れている。我々は、老年期薬物療法のみならず、介護保険をはじめとした社会資源、およびグループホーム、老人保健施設なども積極的に利用して治療を行っているため、老年精神医学の領域について充実した臨床経験を積むことができる。

参考までに、日本老年精神医学会専門医の取得条件を以下に記す。

- 1) 日本国の医師免許証を有すること
- 2) 研修期間を含め7年以上の臨床経験を有すること
- 3) 精神科・神経科・老人科・神経内科・心療内科・内科・リハビリテーション科・脳神経外科等の指定医ないし専門医、あるいはこれに準ずる資格を取得していること
- 4) 老年精神医学の臨床に従事していること
- 5) 本規則により認定された施設において、細則に定める研修カリキュラムを修了していること
- 6) 申請時において、継続して5年以上本学会の会員であること
- 7) 認定委員会の認定試験および審査に合格すること

【てんかん学会認定医（臨床専門医）】

てんかんは、臨床医がよく遭遇する疾患である。その診断と治療には、脳と精神についての医学知識とてんかんに関する専門知識が要求される。

てんかんの認定医（臨床専門医）制度は、てんかんの適切な診断と治療を行うに必要な臨床経験を有する医師を養成し、てんかんを持つ人々の医療に寄与することを目的として、1998年10月に発足した。本制度の暫定規則に基づく資格審査は2003年の第5回をもって終了したため、2004年以降は2002年9月の総会で承認された「日本てんかん学会認定医（臨床専門医）制度に関する規則」に基づき、書類審査と記述・面接試験が実施されている。2004年11月現在、認定医（臨床専門医）の人数は全国で302名であるが、いまだにその需要は満たされていない。

当科では、開設以来、多くのでんかん患者を診療してきた実績があり、脳波・行動の長時間モニタリングシステム、脳画像検査などを用いた診断技術を用いるとともに、小児科や脳神経外科、神経内科と連携し、心理社会的側面を含めた包括的視点から治療を進めてきた。現在、当科は、てんかんの専門的医療機関として道東北の中核的役割を担っている。以下に、認定条件を述べる。

認定条件

- (1) 多くのでんかん患者を実際に適切に診療してきた実績と、それに必要な臨床的能力を十分そなえていること。
- (2) 日本てんかん学会認定医（臨床専門医）{以下、認定医（臨床専門医）と称す} 試験に合格すること。上述した(1)の認定条件を証明するものとして、次の各項をすべて満たす必要がある。
 - ①現在まで5年以上引き続き本学会の正会員であること。
 - ②現在、てんかん診療に従事していること。
 - ③種々の病型を含む50例の具体的なリスト（脳神経外科では手術例10例を含む25例とする）および症例詳細記述5例を提出すること。
 - ④てんかんに関する論文があること（原則として臨床論文。最近10年間のもの5編、うち3編は筆頭著者としての臨床論文であること）。
 - ⑤認定研修施設（当科）における1年以上の研修歴を有すること。

2. 大学院コース

精神医学における大学院は、各自の関心領域の医学研究論文を作成することによって、臨床または基礎的研究能力と専門的学識をもつ研究者・臨床医を養成することを目指す。真理を追究する研究を行い、その論文を書くことによって、学問の面白さ、楽しさ、深さを知るとともに、各々の研究が医学の発展につながることを実感してほしい。

大学院コースには、以下の臨床精神医学領域と基礎神経科学領域の3コースがある。いずれも4年間の研究期間内に国際誌に掲載される学位論文を完成し、医学博士の学位取得を目指すものである。

1. 睡眠医学
2. 老年精神医学
3. 神経生理学

連絡先／担当者 氏名 田村 義之

メール tamuray@asahikawa-med.ac.jp

電話 0166-68-2473

診療科ホームページ <http://www.asahikawa-med.ac.jp/dept/mc/psychi/>